



2024.3.20 第140号

年金局・「隠退教師を支える運動」通信

一月一日に起きた能登半島地震の被災教会、被災者の方々のことを祈りつつ、聖書の御言葉に聴きたいと思えます。一日も早く、復興への道筋が見えてきますように祈ります。

すべてを瓦礫の山にしてしまふ地震・災害さらには戦争がこの世のいたるところで起こっています。自分の住み慣れた家が崩れ、大切な人、大切なものが失われたとき、私たちは闇の中に置かれたような思いとなり、悲嘆に暮れるしかなくなりませう。

その闇を切り裂くように「光」なる御言葉が私たちに与えられます。「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れ

## 「恩みに生かされて」 ～哀歌3章から～

東海教区 長野教会牧師 横井 伸夫

みは、決して尽きない。それは朝ごとに新たになる」（哀歌3章22節）。

しかしこの詩人は決して平穩無事な生涯を歩んでいるのではありません。大きな苦難の中にあります。「苦汁と欠乏の中で貧しくさすらった日



横井 伸夫先生

のことを、決して忘れず、覚えていくからこそ、わたしの魂は沈み込んでいても、再び心を励まし、なお待ち望む」（19～21節）と詩人は語りま

す。聖書協会共同訳では、「わたしの苦難と放浪を、苦よもぎと毒草を思い起こしてください」と訳されています。詩人は確かに苦悩の中に打ちひしがれています。

しかし、旧約聖書学者であられた左近淑先生は、この箇所にいわれる「写本家の訂正があるとして、『沈み込んで』ではなく、『あなた』つまり『主は必ずわたしを顧み、わたしの上に身を沈める』というのが訂正前の言葉である」としました。神様ご自身が苦悩にのたうつ、わたしの上に、身を沈めて、うなだれ、かなしんでおられると詩人はうたいます。

「身を沈める神」、それは写本家が耐え難かった強烈な描写であつたのでしよう。しかし私たちは「身を沈める神」こそ真実な神様であることを知っています。低きに降られ、私たちの苦しみも憂いもそして死をも、ご自身の痛みとして、嘆きとして受け止めてくださる方こそ私たちの主イエス・キリストです。罪の中にあり、闇の中にある私たちのところに主は降られ、身を沈めてくださいます。

十字架の死に至るまでご自身の身を沈めてくださる神様と出会うとき、この詩人のように絶望的に見える現実の中において、神様の慈しみと憐れみが尽きないことを見出すことができるのです。主の恵みに励まされ、詩人は励まされ、主の救いの御業を待ち望みます。

私たちも身を沈める神様の恵みを受けた者です。主イエス・キリストは、私の代わりにご自身を十字架につけら

れ、私たちの代わりに、「罪人としての死」を死なれたのです。神様に見捨てられる苦しみを耐え忍ばれたのです。この主の死によつて、私たちは神様のものとされ、神の恵みの中に生かされています。神様は十字架につけられたキリストを三日後に死者の中から復活させられました。父なる神様は、低きに降られたキリストをご自身の右の座に引き上げられ、「教会の頭」とされました。神の恵みはこの教会の中に満ちています。

私たちは、この恵みによつてキリストと結びあわされ、朝毎に新たになる神様の恵みの中を歩みます。昨年天に召された先輩牧師が、死期が迫る中で、ご家族に「この罪深い者が天の国の食卓に連ならせていただけ。こんな喜ばしいことはありません」とメールされたそうです。主の恵みに生きる喜び、それは永遠のものであり、死であつてもこの喜びから私

たちを引き離すことはできません。神様の恵みに生かされた多くの先達の方々の生きざまに学び、この小さき者をも

「隠退教師を支える運動」から「クリスマス祝金」をお贈りしました

「隠退教師を支える運動」の活動の一つとして、今年も全国の運動参加者から、教団年金非受給者及びそのご遺族（配偶者）合計210名に「クリスマス祝金」をお贈りしました。

毎年、沢山の感謝のお便りをいただいておりますが、その中から、海外で活躍されていらっしゃる教師からお札状と共に届いた「近況報告」をご紹介させていただきます。

（推進委員会事務局）

生かしてくださる主の憐れみに感謝しつつ、歩んでいきたいと思います。  
(よいい・のぶお)

クリスマスおめでとうございます！

地球の反対側にあつて、この一年も主のみ手に守られて歩むことができました。小さな者をいつもお祈りに覚えていてくださる皆さまに感謝しています。

今年、5月6月の一時帰国の後は、心身をゆるめてほんやり過ごす生活が続きました。それでも、9月にはブラジリアの日系教会に招かれて、移民115周年を記念する敬老会でメッセージを担当しました。12月の現在では、大分元気が回復してきたと感じています。

独り暮らしを続けていくために一番の支えとなつているのは、週2回サンパウロ福音

教会で行なわれているデイサービス・シャロームでの交わりと昼食です。火、木、合わせて利用者は23名。最高齢者は102歳の男性で、12歳でブラジルへ移住し、97歳までお百姓さんとして生きて来られた方です。シャロームに参加するようになって笑顔が増え、昼食は毎回完食！体操もしっかりされます。また、この12月に100歳になられた方(女性)も、10歳から畑仕事をして学校にも行けなかったけれど、不平や不満を抱かず、すべてを受け入れて自然体で生きてきたと話してくださいました。このようなお年寄りたちとのいのちの触れ合いが、私に慰めと喜びを注いでいます。そして2世、3世のボランティアたちが発揮する創造性や優しさ、シンプルでわかりやす



デイサービス・シャローム

い日本語がとても心地よく、本当にこの活動は小さなシャローム(平和)だと実感しています。

主日礼拝は、引き続きサンパウロ福音教会で守っています。教会員は90歳前後と70代後半が数名、そこに牧師夫妻を入れても10名に満たない小さな礼拝です。数年前にアライアンス教団に所属し、毎週異なる牧師が交代で説教するのでご用が回ってきません。けれども、私は客員として、感謝してそこに寄り添っています。

そのような大人の礼拝ですが、最近、近隣の駐在員家庭から子供たちが教会学校に来るようになって、階下のホールは賑やかになってきました。若い2世の夫妻が日本語で奉仕しています。子供たちの声がす

るのは久しぶりで、私たちが年寄り組は喜んでいきます。そしてここ4ヶ月間ほど、これまでに発信してきたブラジル通信をまとめて一冊の本にするという作業に取り組んでいます。尊敬するW牧師が、ネガティブな思いに沈みがちな私をゆり起こして進言くださったので着手できました。過去の記録を読み返してみますと、そこにまた、共に歩んでくださった多くの方々の思い出が現れてきて、しばしば懐かしさにひたりながら筆を進めています。

この本の出版によって、皆さまの心が成りますようにと祈り願っています。

そんなところが私の近況ですが、皆さまはどんな一年をお過ごしになられたでしょうか？

クリスマス喜びと希望が、皆さまの間に満ち溢れますように！

来る2024年は、社会的

にも個人的にも平和と共生の方向へと進んでいくことができますように、心からお祈りいたします。

どうぞお元気で良い新年をお迎えください。

2023年12月

サンパウロにて

小井沼眞樹子



# 業務室より

## — 年金を受けている方へ — 年金給付のお知らせ

4月の定例給付のご案内をします。

**送金内容** 2023年度第4期分給付  
(2024年1・2・3月分)

**送金日** 2024年4月10日(水)  
期日に、ご指定の金融機関に入金されて  
いない場合は、ご連絡ください。

**次回送金** 2024年7月10日(水)

連絡先・年金振込先の変更は、できる  
限り早めに、書状、Fax、e-mailの何れ  
かで、年金局までお知らせください。

☆第42総会期第3回年金局理事会が、1月19日(金)に教団会議室にて開かれました。北海道から九州までの理事・監事・総幹事、支区代表など24名(内、オンライン参加1名)が出席し、各教区での活動報告や今年度後半に向けての謝恩日献金の増額、参加率アップの呼びかけの取り組みについて情報交換をすることができました。

☆11月に匿名の信徒の方から100万円が献げられました。感謝をもってお知らせいたします。

☆2023年度末を迎えました。今年度も12月の定例給付現在時点で709名の先生・ご遺族の方々に合計約1億629万円を予定通りお送りすることができました。その中には、2023年1月より開始されました代務者として現役復帰教師の受給継続者3名も含まれています。感謝し、ご報告いたします。

☆1月1日能登半島を中心に発生した地震によって被災された方々、教会、地域のみなさまに心からお見舞い申し上げます。ご連絡のついたこの近隣の受給者の

方々はみなさま大きな被害は受けていらっしゃらないようで安心しました。しかし、数名の方とはご事情はわかりませんが、連絡が取れず案じております。教団では教区とも連携をとりながら、人道的支援、教会等再建支援のために祈りを合わせ募金を継続的に行なってまいります。どうぞお覚えください。

(村山めぐみ)

### 『2024年度現況届提出』のお願い

今月は「現況届」を提出いただく月です。同封のハガキをご確認ください。

- ①記載事項に変更がある場合は訂正をご記入ください。
- ②緊急連絡先を必ずご記入ください。
- ③2024年受給者名簿(9月発行)の掲載や配布についてのご意向をご記入ください。

以上をご確認の上、同封の「個人情報保護シール」を貼付し、ご投函ください。

**投函期限** 3月29日(金)

※このお知らせを受け取られましたら、直ちに記入・投函をお願いいたします。

### 【ご注意！】

このハガキの受け取りをもって、みなさまの現況の確認といたします。ご提出がない場合には、7月10日以降の送金を停止いたします。その後、確認ができ次第送金は再開いたしますので、期日を過ぎた場合も速やかにご郵送ください。

日本基督教団年金局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

Tel: 03(3202)2080 / Fax: 03(3202)2081

mail:menkin@uccj.org

「隠退教師を支える運動」推進委員会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18-31

Tel: 03(3232)8005 / Fax: 03(3202)2081

mail:sasae100@uccj.org